

美浜町長 山口治太郎様

## 美浜 3号事故 2年に際し、美浜原発の閉鎖を求めます 原発に頼らない新しい町づくりをめざして下さい

若狭連帯行動ネットワーク

2年前の8月9日、関西電力美浜発電所3号機で復水系配管破断事故が起きました。

事故で亡くなった下請け作業員5名の遺族の方々の怒りと悔しい思いは今なお絶えることがありません。重軽傷を負われた作業員6名の方々の痛みは治まらず、刻み込まれた心の傷は癒えることがありません。

しかし、美浜3号事故2年を2週間後に控えた7月25日、関西電力は、美浜3号を9月下旬に再起動し、2週間の試験運転を経て10月には営業運転を開始すると発表しました。これは遺族の心を逆なでする居直りであり、無責任な事故の幕引きだと言わざるを得ません。

福井県警と検察による膨大な資料の捜査が2年にわたり続いています。その結論はまだおりていません。「起訴」の結論が下され、関西電力の刑事責任が司法の場で裁かれるのが先ではないでしょうか。

美浜3号は建設当初30年と言われた寿命を今年12月に迎えます。大事故で6名の命を奪った原発がなぜ寿命を超えて生かされ続けるのでしょうか。美浜1号や2号も30年を超え、40年に近づいています。私たちは、過去に大事故を起こし、老朽化し、耐震安全性も疑われる美浜原子力発電所の全面閉鎖を求めます。

そのため、貴職には、美浜原発の閉鎖に理解を示して頂き、原発に頼らない町づくりをめざして下さい。ここに強く要請致します。

私たちは本日、関西電力に別紙申し入れを行いました。

貴職もご存じのとおり、関西電力の品質保証システムはその掛け声とは裏腹にズサンな状態のままです。30年間できなかった品質保証システムが、なぜ今確立されたと言えるでしょう。関西電力がその責任を果たす道は美浜原子力発電所の自主的閉鎖以外にないと私たちは考えます。

政府の地震調査研究推進本部は美浜原発周辺の陸域と海域の活断層が連動して兵庫県南部地震を超える大地震が起こる危険性を指摘しています。ところが、関西電力はこの指摘を無視し続けています。原発の場合はなぜ



福井新聞  
2006.8.10

美浜原発全面閉鎖  
県、町、関電に要請  
若狭連帯行動ネットワーク  
関西電力美浜原発3号機死傷事故から丸2年となる9日、脱原発を目指す市民グループ「若狭連帯行動ネットワーク」は、県と美浜町、関電に対し、同原発の全面閉鎖を申し入れた。  
県庁には同ネットワーク世話人の山崎隆敏さんが訪れ「遺族の中には（3号機）試験起動に不満を持つ人がおり、県民の多くも疑問を感じている。警察の捜査が終わっていない段階で運転再開を認めていいのか」と県や関電の姿勢を批判。全面閉鎖と脱原発による自治体づくりを求める西川知事あての文書を、県原子力安全対策課の大山容一参事に渡した。写真。  
美浜町ではメンバーで元町議の松下照幸さんが、正木伸武助役に対し同様の文書を手渡し「老朽化に伴い想定外の事故が起きた。重大事故へ発展する危くもある。町民の安全、安心のため一日も早い閉鎖が望まれる」と町の対応を求めた。正木助役は「安全、安心の優先と町民の生命財産を預かる使命から町も対処してきたことを理解してほしい」と答えた。  
大阪市の関電本店でも森詳介社長あての文書を提出した。

### ■市民団体

脱原発を目指す市民団体「若狭連帯行動ネットワーク」は、美浜町と県に対し美浜原発の閉鎖などを求める要望書を提出した。

同町では、メンバーで前町議の松下照幸さんが町役場を訪れ、正木伸武助役に手渡した。

要望書では同3号機の運転再開について、県警と検察の捜査結果を待った上で、「関西電力の刑事責任が司法の場で裁かれるのが先だ」などと主張。さらに、美浜1、2号機は運転開始から30年を超えており、同3号機も12月で30年を迎えることから、「老朽化し、耐震安全性も疑われる」として美浜原発の全面閉鎖を求めた。正木助役は「要望書の趣旨は町長に伝える」と話した。

このような大地震を想定する必要がないのでしょうか。私たちは美浜原発等の耐震問題について関西電力に別紙の質問書を提出しています。この問題をぜひ、美浜町でも取りあげ、検討して下さい。

私たちは、美浜3号事故2年を期して、原発重大事故が起こる前に美浜原子力発電所を全面閉鎖するよう関西電力に強く求めました。30年を超えた美浜原子力発電所は遅かれ早かれ閉鎖されます。老劣化に伴い、想定外の事故が起き、重大事故へ発展する危険も危惧されます。町民と国民の安全・安心のためには、1日も早い閉鎖が望まれます。

原発に頼らない町づくりを急いで下さい。「日本で初めて脱原発への道を歩み始めた原発立地町」として歴史に名を残して下さい。美浜町が原発に頼らない新しい町として再生されることを強く期待します。

別紙：1. 関西電力社長宛「美浜3号事故2年に際し、美浜原発の全面閉鎖を求めます」(8月9日)

2. 関西電力社長宛「耐震設計審査指針の改訂案を踏まえた地質調査に関する公開質問書」(7月24日)

2006年8月9日

関西電力株式会社社長 森 詳介様

## 美浜3号事故2年に際し、美浜原発の全面閉鎖を求めます

2年前の8月9日、美浜3号で復水系配管破断事故が起きました。噴出する高温蒸気を浴びて下請作業員5名が即死、6名が重軽傷を負わされました。遺族の怒りと悔しい思いは今なお絶えることがありません。重軽傷を負われた作業員の痛みは治まらず、刻み込まれた心の傷は癒えることがありません。

貴社は、事故の刑事責任を未だ問われず、経営トップが事実上居座り続け、社会的責任も果たしていません。にもかかわらず、事故2年を2週間後に控えた7月25日、美浜3号を9月下旬に再起動し、2週間の試験運転を経て10月には営業運転を開始すると発表しました。これは遺族の心を逆なでする居直りであり、無責任な事故の幕引きだと言わざるを得ません。

美浜3号は今年12月に営業運転開始から30年を迎えます。貴社は建設当初、「寿命は30年」と言っていたはずですが、大事故で死者を出した原発をなぜ寿命を超えて生かし続けるのですか。美浜1号や2号も30年を超え、40年に近づいています。私たちは、大事故を起こし、老朽化し、耐震安全性も疑われる美浜原子力発電所の全面閉鎖を求めます。

貴社は今なお「破断事故が起こるまで当該配管が減肉していたことを知らなかった」と言い張っています。しかし、大飯1号での予想外の減肉で美浜3号の当該配管が未点検であることを事故直前に発見しながら放置した責任、日本アームが「当該配管の点検登録漏れ=26年半無点検」を発見してから1年4ヶ月もの間、何度も是正する機会がありながら点検せず先送りした責任など、その核心部分が未解明のままです。1万点以上の証拠資料を押収し2年間捜査し続けている福井県警と検察には遺族と国民に対する重い責任があります。補修課担当者、美浜発電所長、若狭支社長、本社経営トップ、どこまで刑事責任が問われるのか、その判断が注目されています。その結論はまだおりていません。その段階で、貴社はなぜ今、急いで美浜3号を再開させるのですか。

貴社は「再発防止に係る行動計画」を昨年3月25日に発表し、当時の藤社長は「安全を守る。それは私の使命、我が社の使命」と宣言しました。しかし、この行動計画を策定していた1~3月、事故配管取替工事で三菱重工業による取替用配管の刻印番号打ち替えが行われ、11月になって三菱重工業と関西電力のズサンな品質保証活動が明らかにされました。また、今年3月には大飯3・4号の廃棄物処理建屋内で原因不明の火災が発生しました。このような有様では、貴社の品質保証システムが整備され、うまく機能しているとは到底言えません。

美浜原発では3基とも大事故を起こしています。運転開始間もない美浜1号では1973年4月、燃料棒折損事故が発生しました。にもかかわらず、貴社は3年半隠し続け、その後ほぼ7年間運転休止を余儀なくされました。美浜2号では1991年2月、「粘りがあるから破断しない」と豪語した矢先に蒸気発生器細管のギロチン破断事故が起き、冷却水が噴き出しECCSが作動しました。1998年10月には使用済燃料やMOX燃料の輸送容器で中性子遮へい材レジンのデータ改ざんが発覚しました。その教訓がさめやらない1999年9月、貴社は若狭ネットなど市民グループからの再三の指摘を無視し、英BNFLによる高浜原発用MOX燃料ペレットの外径データ改ざん事件を見抜けませんでした。これらの大事故・大事件のたびに、貴社は「反省」を語り、「改善」を約束してきました。しかし、貴社は、火力より発電単価の高い原発で経済性追求を図るため、品質保証活動を置き去りにしてきたのです。美浜3号事故による5名の死と6名の重軽傷はその結果です。この犠牲を無駄にしてはならないと私たちは考えます。30年間でできなかった品質保証システムが、なぜ今確立されたと言えるのでしょうか。

貴社がその責任を果たす道は美浜原子力発電所の自主的閉鎖以外にないと、私たちは考えます。

政府の地震調査研究推進本部は美浜原発周辺の陸域と海域の活断層が連動して兵庫県南部地震を超える大地震が起こる危険性を指摘しています。原発震災を美浜原発で引き起こしてはなりません。そのためにも、何度も大事故を起こし老朽化し「30年」の当初寿命も尽きた美浜原子力発電所を全面閉鎖すべきです。

私たちは、美浜3号事故2年を期して、原発重大事故が起こる前に美浜発電所を全面閉鎖するよう貴社に強く求めます。